

飼料用米は黒毛和種雌肥育牛の 大麦代替飼料として利用できる

海外からの輸入穀物に過度に依存している我が国の肉用牛肥育経営の収益性は、穀物の国際価格、為替相場および海上運賃などに強く影響されており、国産飼料に立脚した肥育経営の確立が求められています。しかしながら、国産飼料である飼料用米の黒毛和種雌肥育牛への利用はほとんど検討されていません。そこで、三重県畜産研究所では、全肥育期間、飼料用米を大麦等デンプン飼料の代替として給与する飼養方法を検討しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 同一種雄牛を父牛とする黒毛和種雌牛 12 頭 (12 ヶ月齢) を用い、1 区 4 頭として、3 区に区分。慣行飼料区に対して、肥育前期 (肥育 0 から 48 週) に肥育前期慣行飼料の大麦の半量を破碎モミ米に置き換え、肥育後期 (肥育 48 から 84 週) に、肥育後期用慣行飼料の大麦の半量および全量を破碎モミ米に置き変える 2 区の給与試験を行いました。
2. 乾物摂取量、TDN 摂取量および 1 日当たりの増体量は、モミ米を給与しても有意な変化はなく、血中ビタミン A 濃度の上昇も認められませんでした。しかし、血中ビタミン E 濃度は、給与量に応じて高く推移します。
3. 枝肉重量は、モミ米の給与量に応じて増加する傾向を示しますが、有意な差はなく、バラの厚さや皮下脂肪厚が厚くなります。
4. 肉質等級、脂肪交雑、胸最長筋面積、歩留基準値、肉色、きめ、しまりは、モミ米給与による変化はなく、ロース内、肩部皮下、腎臓周囲脂肪の不飽和脂肪酸率も差がありません。



写真1 肥育前期慣行飼料



写真2 破碎モミ米



写真3 給与状況

☆ 活用面での留意点

黒毛和種雌牛において肥育前期用飼料の大麦の半量および肥育後期用飼料の大麦の全量を破碎モミ米に代替できることが確認され、生産農家での応用が可能です。詳しくは、三重県畜産研究所大家畜課 岡本俊英 (TEL : 0598-42-2029) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)